

彼方 「あなた」

校長通信
H24.12.21
Vol.37

【終業式で伝えなかったこと】

「今年も残すところあと十日、改めて今学期を振り返り、三学期のスタートにつながるような行動目標を作りたいと思います。」

振り返りの第一歩は、良かったことや問題点を『事実』として認識することです。例



えば、『部活や勉強をもっと頑張ればよかった』という反省をよく聞きますが、『頑張ればよかった』の裏側にある『事実』は何か、ということをはっきりさせることが大切なのです。そうしないと『部活と勉強を頑張る』というような気合いと根性みたいな目標設定になってしまいます。こういう目標では、何も変わりません。そこで目標設定までの考え方や方法を少しお話しします。

まずは『事実』をしっかり捉えることです。『事実』というのはひとつしかありません。ここにペットボトルの水が入っています。『事実』はひとつです。『水がここまで入っている』ということだけです。まずこの『事実』を認めることが大切なのです。

次に、この『事実』をどう捉えるかです。このペットボトルを見て、『もうこれしかない』と見るか、『まだこれだけある』と見るかで次の行動の決め方

や意欲が変わってきます。

『もうこれしかないから少しづつ大切に自分だけ飲む。』と考えて行動するか、

『まだこれだけあるから少しだけ弟にも飲ませてあげよう』と考えて行動するかで、その後に会おう結果が全く違ってきます。どちら

がよい、悪いというのではなく、『事実』をもとに自分の行動を目指す方向にどう向けるかが大切なのです。



私たちは、自ら考え、行動し、助け合うこと『自主貢献』を目指して今学期も過ごしてきました。私たちが行動改善するとき、少なくとも助け合える行動を取ることが、改善策を考えるときのヒントだと思います。例えば、『部活動に遅刻ばかりしていた』という問題を『事実』として認識します。次に考えるのはその問題を解決するのに『誰かのために』という発想です。『朝早く来て、部員のために練習の準備、コート整備をする』という行動目標を設定するので、『遅刻をしない』という目標ではなく、『みんなのために早く来て何かをする』ことで遅刻のイメージはなくなるのです。

そして、その後は実践あるのみです。『目指せ！三日坊主』が実践の第一段階、三日続けば一週間はできます。一週間続けば二週間に伸ばせます。二週間できれば一ヶ月までいけます。そこまで行けば三ヶ月、半年、一年と続けることができます。そうすれ

ば、自分にとって新たな行動が習慣として身につくのです。『振り返り』というのはこのように、自分の改善すべきことを行動可能な目標にし、実践していくことです。できたかできなかったかが簡単に自己評価することができるようです。さあ、みなさんが立てる三学期の目標がこのような発想で作られることを願っています。そして二〇一三年、平成二十五年幕開けの日に、改善策を実践し、自分を変える(成長させる)ということを自分の心に誓い、初詣の時に神様に宣言してみてください。

少ないお賽銭で山ほどのお願いをする他力本願ではなく、自分が変わるための行動を初詣で宣言するほうが、自主的な生き方につながります。

蛇足ですが、初日の出を拝みに渋滞ができませんが、大晦日に一年の感謝や成長した自分を報告しに沈む夕日を拝みにいく自分でありたいと思います。

来年こそ自分が変化するための行動目標を高らかに宣言しよう！そして新学期元気な笑顔で会いましょう！感謝と決意の年末年始を送れるよう願っています！今日もしっかり聴いてくれてありがとう。」

このようお話をしたかったので、体育館の寒さと短めに話をしようとしたために、趣旨が子どもたちにもよく伝わらなりました。この『彼方』を読んでも、もう一度『振り返り』ができればと思います。

